

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の発生状況（技術情報第 9 号）について（送付）
果樹カメムシ類の発生がやや多いと考えられるため、圃場での発生に十分注意してください。

1 概要

果樹カメムシ類は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの 3 種が主であり、チャバネアオカメムシが最も多い。

本年は果樹カメムシ類の越冬数が少なく、春から 7 月にかけて少発生であったが、餌となるヒノキ、スギの球果数が多かったため増殖し、8 月下旬より予察灯への飛来数が増加している。

今後、収穫期を迎えるカキ、極早生、早生温州では、圃場および周辺の発生状況に十分注意して、防除を行う。

2 果樹カメムシ類の発生状況

- (1) 本年は果樹カメムシ類の越冬虫数が少なく、春から 7 月にかけて平年より少～やや少の発生状況で推移してきたが、8 月 4 半月より予察灯の誘殺数が増加してきている（図 1）。特に、天草地域（本渡）における 9 月の誘殺数は、平年より多い傾向である。
- (2) カメムシ類の繁殖源である、ヒノキ樹のビーティング（枝の叩き落とし）調査では、8 月下旬頃より捕獲虫数が増加している（表 1）。
- (3) 餌となるヒノキ球果の口針鞘数は、地域差はあるものの、一部地域では 9 月下旬に、一球果当り 2.5 本（カメムシのヒノキ林からの離脱の目安となる口針鞘数）に達しており、他の調査地域でも現在増加中である（表 2）。
- (4) 以上より、果樹カメムシ類の発生は、10～11 月中旬にかけて平年よりやや多いと考えられ、活動も活発になっていると考えられる。そのため今後収穫期を迎えるカキ、極早生、早生温州では、圃場及び周辺の発生状況に十分注意して防除を行う。

3 防除対策

- (1) 飛来量は地域や圃場によって異なるので、園内および園周辺をよく見回り、早期発見、早期防除に努める。
- (2) カメムシ類は夜間に果樹園に飛来し、朝に周辺へ分散するので、防除は夕方または早朝に行う。
- (3) 合成ピレスロイド系薬剤を連用するとハダニやコナカイガラムシ類が急増することがあるので注意する。
- (4) 収穫期が近づいているので、特に収穫前日数は厳守する。
- (5) 農薬の使用にあたっては、必ず農薬ごとに定められた使用基準を守り、安全な農産物の生産に努める。

表1 ビーティング調査結果

1枝当たり頭数

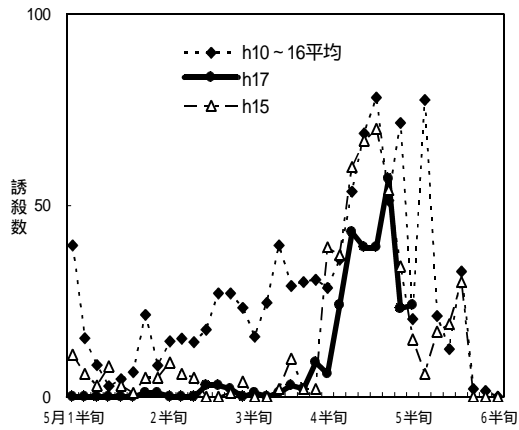
月日	熊本市河内町		大津町		宇城市豊野町	
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
6.07	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6.17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6.30	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0
7.08	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7.28	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	1.6
8.10	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4
8.24	0.0	0.6	0.2	0.0	0.4	1.0
9.08	0.2	1.2	1.2	0.6	1.4	0.4
9.22	3.4	1.4	6.4	1.2	1.4	0.0

- ・チャバネアオカメムシ成虫、幼虫頭数一地点5樹に付き、1枝ずつ計5枝を調
- ・熊本市河内町の調査地点は、カンキツ、ナシの栽培地帯
- ・大津町の調査地点はヒノキ純林地帯
- ・宇城市豊野町の調査地点はナシ、ブドウ等の果樹栽培地帯に隣接する山林

表2 ヒノキ球果口針鞘数調査結果

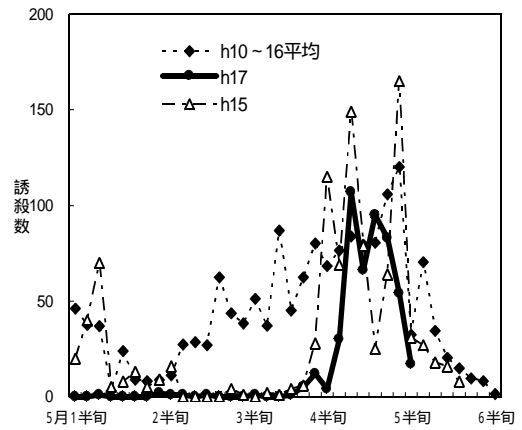
月日	熊本市河内町	大津町	宇城市豊野町
6.17	0.0	0.0	0.0
7.08	0.0	0.0	0.0
7.28	0.1	0.0	1.3
8.10	1.4	0.0	3.3
8.24	3.2	0.4	15.3
9.08	3.3	1.1	9.1
9.22	7.6	5.5	25.0

- ・数字は一球果当たりの口針鞘数
- ・調査は一地区3樹で、それぞれ30果、計90果調査



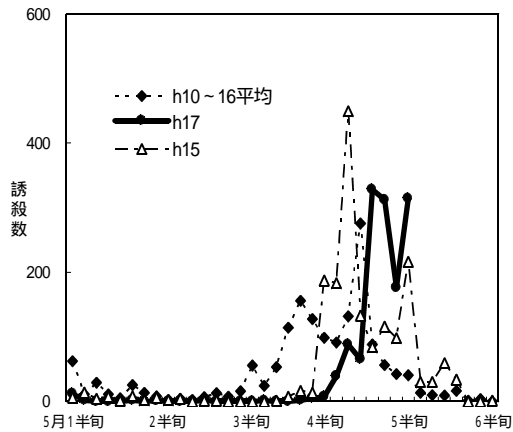
予察灯誘殺数

(合志町)



予察灯誘殺数

(松橋町)



予察灯(BL)誘殺数

(本渡市)

図1 予察灯への誘殺数

注1：誘殺数はチャバネアオカメムシの数値である。

注2：平成15年は近年の後半（秋期）発生型の年である。

注3：予察灯は合志町と松橋町は100w水銀灯で、本渡市は20wブラックライトである。

